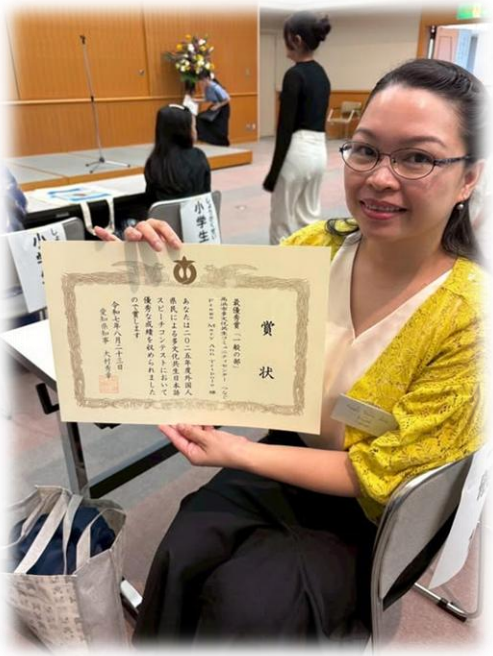
Trading care
共に生きる　共に働く
2025年10月1日
Vol. 65

はてぃはてぃ

HATI-HATI

HATI-HATIはインドネシア語で相手を思いやる時に使うやさしいことばです。

特集　外国ルーツの子どもたちについて考える



令和７年8月23日（土）に愛知県図書館で行われた「外国人県民による多文化共生スピーチコンテスト」で当法人のメリーアンさんが

「最優秀賞」

をいただきました。テーマは「日本人になりたい？！」私たち日本人にも、長く日本に住む外国籍の方にも、若い外国籍住民のみなさんたちにもすべてのみなさんに届く素晴らしいスピーチでした。今回は、発表した原稿をご紹介します。それらについて、みなさんといろいろ考えたいと思います。

「日本人になりたい！？」

フラガ　メリー　アン　トリポレ

　メリーアンです。１７年前にフィリピンから日本へ来ました。来日後しばらくして、ブラジル人の夫と出会い結婚しました。ブラジル国籍の夫とフィリピン国籍の私の共通言語は英語でした。日本で英語を使って生活をしました。（左下に続く）

　やがて、ふたりの子どもに恵まれました。日本生まれのダブル国籍の子ども、夫、私の生活。今までの英語での生活から、子どもを中心に日本語での生活になりました。生活も日本人のような生活をするように心がけました。

　娘たちのおかげで日本語が少しずつ理解できるようになりました。日本のルールも育児を通して、知ることができました。ごみの捨て方、まちのつながり、子育ての考え方、教育環境など、フィリピンとの違いにカルチャーショックを受けたことは、１度や２度ではありません。何度も迷い、驚きました。

　日本での生活を中心にしたために、私たち夫婦は、ブラジルやフィリピンの文化や言葉を教えずに来ました。その事を私は後悔しています。理由は、子どもから「自分のアイデンティティがわからない」と言われたからです。子どもが少し大きくなったころ、ブラジルとフィリピンのダブル国籍を持っていることを話しました。その時、子どもは「えー、日本で生まれて育ったから、私は日本人でしょ？」といいました。そうではないことを説明しても、子どもには伝わりませんでした。子どもは日本の子どもと全く同じだと思っています。

　私は、フィリピンに１５年帰っていません。町は大きく変わり、私が住んでいた頃とは大きく違います。今、私が生きているのは、この日本だと強く感じます。しかし私のこころのふるさとはフィリピンです。このことだけは変わりありません。これは簡単に変えることができないです。

　そんな日々にふと「日本国籍を取ったらどうなるだろうか？」と考えるようになりました。親として子どもの希望を叶えてあげたい。でも時々自分に問います。「なぜ日本人になる必要があるのか？」永住ビザも持っています。確かに、永住ビザと国籍の違いはそれほど大きくはないかもしれません。私にとって何より大切なのは、「今の自分がどこに所属しているか」ということです。家族も家も、仕事も私の生活のすべては、ここ日本にあるのです。そして子どもたちのために日本人になりたい。今は強くそう思っています。

　私たちの人生はとても短いものです。だからこそ、幸せを選びながら自分らしく生きていくことが大切だと思っています。私たち家族のような、日本を生活の拠点としている外国人も増えてきています。みんな幸せを願い生きています。日本は、そういったいろいろな事情を持った外国人がたくさん住んでいます。そういう時代に入ったと思っています。

特集　外国ルーツの子どもたちについて考える

最優秀賞　メリーアン

今回初めての体験でした。とても緊張しましたが、皆も緊張している姿を見て少し安心しました。良い経験ができました。スピーチにも書きましたが、「日本人になりたい！？」実は、今帰化に向けて準備をしています。良い結果を願っています。

トレイディングケア　代表理事　新美　純子

いつも笑顔のメリーアンさん。みんなに元気なパワーを与えてくれる人です。そんなメリーアンさんがスピーチの内容を話してくれた時、私たちは心から彼女を応援したいと思いました。スピーチコンテストの出場が決まってから、毎日特訓をしました。そんな時でも彼女は笑顔を絶やさずがんばりました。

スピーチコンテストの前日の練習では、内容を知っているにも関わらず、聞いていて、涙が込み上げてくる場面が何度もありました。

今までの様々な経験が彼女を作っていると知り、もっとメリーアンのことを知りたいと思うようになりました。子どもたちも様々な思いを抱えていると思うと、彼女たちの話も聞いてみたいと思いました。

林さん（日本語指導の立場から）

私たちが、自分のアイデンティティを意識するのは、自分が考えている自分の姿と、他人が自分を見る見方が違っているとき、特に意識します。日本に来た子どもたちは日本の学校で、第二言語として日本語を学ぶ。その時に自分は何人なのかという「アイデンティティの危機」に陥ることがあります。日本語教育の本当の目的は、コミュニケーションが取れるだけでなく、日本語を学習して、なりたい自分になり、自己を実現すること。それをサポートしていくことが私たちの役割と捉えたい。メリーアンさんは我が子と向き合うとき、日々悩みながらも、それを実践されているなと感じました。すばらしい。

ひろみさん（介護教師としての立場から）

“フィリピンのこともブラジルのことも理解している日本人！”になれるなんて、とても素敵なことですね。子どもさんたちが、大好きな両親の生まれた国に興味を持つ日が必ずやってくると思います。

塚本さん（日本人スタッフの立場から）

メリーアン。ホントにおめでとう！

Tさん（国際協力の立場から）

背景が見えるだけに胸を打ちます

恵子さん（日本人スタッフの立場から）

私も二度、子どもを連れて海外で生活をした経験があるため、メリーアンさんのお話を聞かせてもらった時、胸が熱くなりました。

血のつながった子どもたちであっても、それぞれに個性や考え方があります。そんな中で、一人一人の想いに耳を傾けたうえで決断される姿に、改めて素晴らしい方だと感じました。

ジウさん（ベトナム人日本語学習者の立場から）

メリーアンさんのスピーチを読んだ時、よくわからなかったのですが、メリーアンさんから直接話を聞いた時、長年メリーアンさんが抱えてきた問題や不安がはっきりと伝わってきました。この話は、メリーアンさんの生きてきた姿が目に浮かぶようで、たくさんの人の心に響いたと思います。

ホンさん（ベトナム人日本語学習者の立場から）

子どもたちの何気ない質問に向き合うお母さんとしてメリーアンさんの気持ちや悩み、そして強い決断を聞いて、私は本当に感動しました。

アンジーさん（インターンシップ生の立場から）

アイデンティティについて、子どもと同じくらい親も悩んでいるんだと、はっとさせられました。

Kさん（日本語指導の立場から）

おめでとうございます。

新聞で最優秀賞というのを見て、素晴らしいと思っていました。

スピーチの内容を読んで、長く日本で暮らし、日本で生まれた子を持つ外国籍の方の複雑な思いを強く感じました。「国籍」とか「人権」を考えると、日本人はルーツとか出自にこだわりが強い国民なのだなと思わずにいられません

@TSUNAGU_TAKAHAMA

編集後記

今年で６回目のスピーチコンテスト。今まで９名の仲間が本選に進みました。そのつながりが今回の最優秀賞につながったのではないかとみんなで喜んでいます。来年もたくさんの方に挑戦して頂きたいです。陽子

公益社団法人トレイディングケア
〒444-1303
愛知県高浜市小池町6-5-6
TEL　0566-57－7700
FAX　0566-57－7700
日・月・祝日はお休みです。